

中央職業能力開発協会の概要

1. 概要

中央職業能力開発協会は、昭和54年度、従来の全国共同職業訓練中央会（昭和49年1月7日設立）と中央技能検定協会（昭和44年11月1日設立）を統合し、事業主等に対する指導援助機能を強化し、民間における職業能力開発の推進及び技能検定の実施等の中核団体として設立したものである。

2. 組織（平成17年度）

会長	三好 俊吉	理事長	若林 之矩
会員	512会員		
役員	4人		
職員	121人		

3. 業務内容

(1) 各種研修等の実施

都道府県協会の職業訓練担当職員の研修を実施。

また、企業の教育担当者等に対して能力開発について実践的な知識を習得させる講習会等を実施。

(2) 技能検定試験問題の作成等

技能検定試験問題の作成のほか、技能評価試験・技能審査の実施、都道府県職業能力開発協会が行う技能検定試験実施事業の指導等を実施。

(3) 職業能力習得制度（ビジネス・キャリア制度）の実施

ビジネス・キャリア制度実施のため、専門知識・能力の体系化、教育訓練コースの認定に係る事務及び修了認定試験問題の作成等を実施。

(4) 情報の提供

職業訓練、技能検定その他職業能力の開発に関する情報及び資料提供、企業・団体・労働者個人に対する職業能力開発に関する専門的な情報の提供及び相談の実施。

(5) 各種行事の開催

技能五輪全国大会、全国職業能力開発促進大会、全国職業能力開発推進者経験交流プラザ、技能グランプリ等を開催。

(6) 企業内キャリア形成支援推進事業の実施

企業内における職業能力開発の推進役たる職業能力開発推進者に対する講習、事業主等に対する専門的な相談・情報提供を実施。

(7) 国際協力事業の推進

日本の技能評価システムについての研修や現地トライアル検定等を実施し、開発途上国における技能評価システムの普及促進に協力する等、国際協力・国際交流を実施。